

泉鏡花フェスティバル 2022 ボランティア活動 ～地域とゼミの学びをつなぐ～

団体名●山田ゼミナール・プレゼミナール／代表者名●山田範子(女子短期大学部・准教授)

はじめに

金沢泉鏡花フェスティバルは、泉鏡花文学賞20周年を記念して平成4年から5年ごとに開催されている。文学・文芸を研究する山田ゼミナール・プレゼミナールでは、金沢を代表する文豪・泉鏡花の『高野聖』を読んだことから、「金沢泉鏡花フェスティバル2022」にボランティアスタッフとして参加し、地域と協力しながら学びを深めたいと考えた。

活動内容

フェスティバル期間中の会場補助(総合受付、演劇公演受付、鏡花文学賞授賞式補助)、公式 Twitter での情報発信などの広報活動を行った。他大学から参加された学生の皆様と一緒にフェスティバルをサポートさせていただいた。

成果、結果の考察

ボランティアに参加した学生の感想を以下に抜粋する。

<Aさん>

5年ぶりに開催された泉鏡花フェスティバルには地元の方ももちろん、県外から来て下さる方もいらっしゃいました。色々な方と挨拶や会話を交わし、来てくださる方の笑顔を見ることができて、ボランティアに参加してよかったと改めて思いました。興味津々に展示を見てくださる方、演劇や現代散楽などを楽しみにしてくださっている方を身近に感じ、私自身、さらに文学を知りたい、文学への学びを深めたいと思うきっかけになりました。

<Bさん>

私は主に総合案内所を担当し、場所・日時の案内やパンフレットの配布を行いました。来場者の方に正確な情報を伝えるため、場所・日時を把握することや困っている人を案内するために周囲に気を配ることを意識して参加しました。幅広い年代の方が来場されており、多くの方がフェスティバルを楽しみにして下さっていたと考え、参加できて光栄に感じました。

<Cさん>

泉鏡花フェスティバルでは総合受付を担当しました。受付をする際、来場者とのコミュニケーションを上手とることができました。フェスティバルが開催される日までTwitterでの開催告知・チラシの配布をし、広報活動にも携わることができ多くのことを学ぶことができました。

作品を読むことに加え、他者と関わることによって自己の考えが相対化される。フェスティバルに足を運んだ幅広い世代の地域の来場者と実際に言葉を交わすこと、広報活動を通して他者に向けて情報を発信することによって、自己内対話が促され、泉鏡花やその作品に対する考えの深まりがあったと考えられる。



今後の課題、展望

『高野聖』だけでなく、多くの泉鏡花作品を読み深め、文学・文芸の話題をきっかけに主体的に地域の方々と交流できるようになることが課題である。今後は、泉鏡花をはじめとする金沢に縁のある文学者や文学作品に親しみ、ゼミの学びと地域をつなぐ活動を積極的に模索し、参加していきたい。